

1 目指す学校 構造図

【教育目標】

愛情 学力 勤労 健康

より豊かな 心をつちかう より深く 自ら学ぶ よりよくはたらき 責任をはたす よりたくましく 心身をきたえる

【目指す学校像】

笑顔・あいさつ・ありがとう が 溢れる 清瀬二中

- ①思いやりの心で、互いを認め合い、励まし合う、ありがとうのあふれる学校
- ②明るく元気に何事にも全力で、自己実現を目指し、自己肯定感に満ち、笑顔が輝く学校
- ③生徒が主体的、対話的に深く学び、生徒が問題解決を図る授業が展開される学校
- ④地域に愛され、心の落ち着きと潤いのある教育の環境が整備された学校
- ⑤多様な生徒が共に学ぶ学校

【目指す生徒像】

自分で考えて行動する力 を持つ生徒

- 1【挨拶】誰にでも 笑顔であいさつをする中学生
- 2【優しさ】すべての人に感謝の心を持つ中学生
- 3【実行力】前に踏み出し、失敗しても粘り強く取組む中学生
- 4【思考力】疑問を持ち、考え抜く中学生
- 5【チーム力】発信力・傾聴力・柔軟性・規律性が豊かな中学生
- 6【健康】運動することに喜びを感じる中学生

《二中スタンダード》

- ・仲間と協力して学びに向かう生徒（学びの共同体）
- ・課題解決のために考え抜こうとする生徒（思考の時間）
- ・自分が学んだことを活用・表現できる生徒（知識の共有）

令和6年度の清瀬第二中学校の教育活動方針

生徒一人ひとりが主役

生徒が主体となり、自主的に取組めるように工夫された深い学び

清瀬二中の教育活動

- ・各教科、道徳科
- ・総合的な学習の時間
- ・学年学級活動、生徒会活動
- ・生徒会活動
- ・学校行事、特別活動
- ・特色ある教育活動 等
- ・インクルーシブ教育

他者との関わり

- ・協働的、対話的な学習活動
- ・関わり合いや教え合いを重視した活動

取組 方策

- ①安心・安全・信頼がある学校生活
- ②豊かな心と体の育成（自己実現を図る指導）
- ③確かな学力の定着（授業の質的充実）
- ④家庭・地域と連携した開かれた学校

【これからの社会で求められる人材】

人生 100 年時代、第四次産業革命と言われるように大きな変化の時を迎えている社会に対応して生き抜くためには、
「前に踏み出す力（自主性、実行力等）」
「考え抜く力（計画力、想像力等）」
「チームで働く力（傾聴力、発信力等）」
を持つことが求められている。

【清瀬二中の特徴】

- ・明るく元気で素直な生徒集団で、生徒会を中心とした委員会活動等に積極的に取り組んでいる
- ・運動会や合唱コンクールなどの学校行事には、協力し、楽しんで取り組んでいる。
- ・近隣3校の小学校からの進学が主である。
- ・学力は都平均よりやや下である。

【清瀬二中生の課題】

- ・聴く力や姿勢に課題がある。
- ・基礎基本の学力が二極化傾向
- ・自主的に実行する力をさらに培うことが課題である。
- ・聞いたり、発言したり、話し合うことが苦手な生徒が多い。
- ・家庭学習習慣の定着やより良い学習集団としての学級づくりが大切である。

清瀬の子供たちに育てたい5つの力

- ・Ⅰ 単に計算ができる漢字が書けるといった学力ではない「生きて働く知識・技能」：見える力
- ・Ⅱ 未知のことでも対応できる「考える力」「判断する力」「表現する力」：見える力
- ・Ⅲ 学んだことを人生や社会に生かす「生涯学び続ける力」「人間性」：見えにくい力
- ・Ⅳ ふるさと清瀬を誇りとし持続発展の主体者となる力：見えにくい力
- ・Ⅴ 自他の命を何よりも大切にできる力「生命の尊重」：見えにくい力

新学習指導要領

清瀬市教育総合計画マスタープラン

東京都及び清瀬市教育目標

2 取り組みの方策

(1) 安心・安全・信頼がある学校生活 ⇒ 「生涯学び続ける力・人間性」「生命の尊重」の育成

いじめ・暴力・体罰いじめの未然防止・早期発見早期対応について、校内いじめ防止対策委員会を運営委員会と兼ねて開くなど、教員の意識が薄れないように進め、不登校対策としてSSSやSCを活用し、校内特別支援委員会を定期開催して取り組む。

- ア いじめ・暴力・体罰を許さない強い姿勢と早期発見早期対応の実践の継続と更なる取組
- イ 学校事故・いじめ被害生徒・不登校生徒への迅速な誠意ある対応
- ウ 校内安全管理の徹底と安全指導・避難訓練等の更なる充実
- エ 「ありがとうの言葉」と「あいさつの習慣」で人間関係の円滑、自己肯定感を高める指導
- オ ポジティブな言葉と「なぜ」を大切にしたい指導
- カ 学校と学年で統一した指導を大切にしよう。

(2) 豊かな心と体の育成（自己実現を図る指導）⇒ 「ふるさと清瀬を誇りとし持続発展の主体となる力」 並び「生涯学び続ける力・人間性」の育成

学校行事や学年行事、委員会活動、授業でも生徒が主体となり、主役となる場面を設定することを起案段階から教員が意識を持って行い、校内安全点検等生徒と共に行う取組を増やし、教員が目立たない指導や授業実践を目指す。

- ア 理由を尋ねる会話を意識し、自分で判断する力や説明する力を養う
- イ 相手の話をきちんと聴き、自分の意見をしっかり表現する態度を育成する取組
- ウ 道徳の充実のための取組
- エ 生徒が主役となる場面を意識した指導と取組方法
- オ 総合的な学習やキャリア教育の充実

(3) 確かな学力の定着（授業の質的充実）⇒ 「生きて働く知識・技能」 並び「考える力・判断する力・表現する力」の育成

学校内で統一され、小学校との連携を視野にした授業スタイルを考え、授業の基盤となる学級経営を深める。

- ア 日頃から、間違いや失敗、できないこと、個性を認める人間関係の育成
- イ 学校で共通した授業スタイルの充実と深化
- ウ その時間で身につけるべき力が明確で、まとまりのある1単位時間の授業
- エ 主体的・対話的で深い学びのある授業（問題解決型の授業、生徒が見通しを持てる授業）の実践
- オ 協働的学び・対話的学びを意図的に取り入れた授業や学級指導等を意識して実践
- カ 他者への説明、意見発表、議論、教え合い等アウトプットを重視した教科授業
- キ 生徒の主体的な活動場面の工夫（発問の仕方や声かけ、導き方等）する

(4) 家庭・地域と連携した開かれた学校づくり ⇒ 「ふるさと清瀬を誇りとするし持続発展の主体となる力」の育成

ホームページ等による情報発信を進めて、継続性のあるものにする。また地域行事への生徒参加を促進する

- ア 小中連携教育を充実し教育の質を高め、また地域に根差した教育のさらなる推進。
- イ 学校・学年便り、HPでの情報発信等による地域に信頼される開かれた透明性ある学校づくりに努める。
- ウ 保護者のPTA活動への参加割合の向上と学校の地域行事への参加推進
- エ 青少年地区委員会と連携した教育活動の実施

(5) 特別でない特別支援教育「交流学習」から「共同学習」の時代へ ⇒ インクルーシブ教育

- ア 支援が必要かの有無にとらわれず、すべての生徒が「共に学ぶ」ことから、共生社会の形成の基盤を培う

(6) 教職員が生き生きと働く環境づくり

組織的・効率的な学校運営を目指して、分掌組織の改革、学校経営支援システムを活用した業務の効率化を進める

- ア 部活動の活動日、時間の軽減
- イ 最終退勤時間の推進
- ウ 校務システムの利用による校内会議の効率化

目指す教師像：生徒が主役であることを大切に、感謝を忘れず、教師であることを誇りに思う教師